



Profile

情熱カンパニー

2014年4月2日、阿南市見能林町で創業。5年間は看板も掲げず、ひたすら農業に取り組んできた。そこには「まず移住新規就農者として、地域の皆さんに認めていただくことが大切」と考えていた代表の三木義和さんの思いがあった。今では、約18ヘクタールの広大な土地で多品目の野菜、お米、果物や花を栽培し、今後は、食品加工に進出する準備を進めている。



「農業で幸せに生きていく」という明快な目的と共に広大な土地で作物を育てながら、人と農業の価値を高める

1日の出荷量はキャベツ1日2トンから5トン、チンゲンサイ1,000株から2,000株、ブロッコリーは、1,000株。これらは全体のごく一部。社員、パート、アルバイトも含めて80人の仲間が働いている。お客様に安心、安全な農作物を届けるのは、農業者として当然のこと。情熱カンパニーでは、農業には、さらに多面的な価値があると考え『農業で世界の社会問題を解決する』をミッションに掲げ、様々な取り組みを行っている。

高齢者や障害のある人を雇用して、個人を尊重し、得意分野を活かした輝く場所を提供し、人それぞれの価値を高めている。また、所有する農機具を使った高齢農家の農作業の手伝いも行い、徳島県や阿南光高校などと連携して、公園で刈り取られた雑草を堆肥にし、その堆肥から野菜を育てる産学連携の取り組みも行っている。

これらすべての活動のその根底にあるのは、理念である「農業で幸せに生きていく」というシンプルな目的。農業で幸せに生きていくこと。「春と秋、キャベツを収穫していると、なんともいえないやわらかなあたたかい風が吹いてくる。ずっとこうしていたいって思うんです」と言う三木社長。情熱カンパニーの農業はそんなあたたかい風のような農業だ。農業が社会に欠かせないインフラとなることを夢見て、これからも未来へ向かって歩みを進めていく。